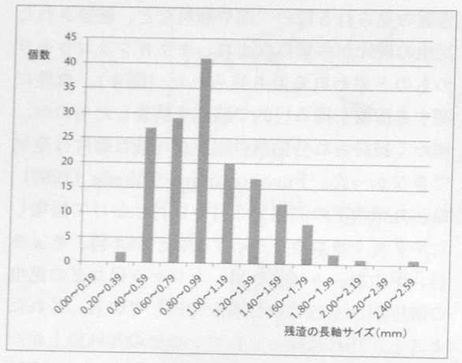

図5　キクガシラコウモリのフンに含まれていた昆虫破片の長軸長の分布

く破砕する習性には関連があるように思われる。キクガシラコウモリは主に森林の低層域を採餌空間として利用しているとされ（庫本，1972）、餌となる昆虫の発生量や種組成なども含め、生息地の森林環境の影響を受けやすいと考えられる。また、富山県下のブナクラス域について、宮脇（1977）は地形が急峻で接近・施行が困難なため、土地利用は粗放的で、植林地も限定的であると述べている。鐘釣周辺のキクガシラコウモリは、人間による森林改変の影響をあまり受けることなく生活していると思われ、サル穴は安定した重要なルーストと位置付けられる。

謝辞

トロッコ列車軌道への立ち入りについて、黒部峡谷鉄道よりご配慮を頂いた。株式会社ラーゴの牛島釈広氏には、フンに含まれていた残渣の検討にご協力頂いた。本研究の一部に、平成21～23年度日本海学研究グループ支援事業助成金を使用した。以上の方々と機関に心から感謝します。

引用文献

Funakoshi, K. and Takeda, Y. 1998. Food habits of sympatric insectivorous bats in southern Kyushu, Japan. Mammal study. 23：49-62.

柏木健司・瀬之口祥孝・阿部勇治．2011．富山県黒部峡谷鐘釣地域のサル穴から産したニホンザル遺体．日本古生物学会第160回例会講演予稿集，p.66．日本古生物学会，東京．

庫本　正．1972．秋吉台産コウモリ類の生態および系統動物学的研究．秋吉台科学博物館報告．8：7－119．

宮脇　昭．1977．自然保護、環境保全に対する提案．富山県の植生，pp.245－258．富山県，富山．

村井仁志．1998．富山県上市町におけるテングコウモリの観察例．富山の生物．37：39－41．

村井仁志・穴田　哲．1993．富山県内の人工洞における翼手類について．富山の生物．32：24－29．

村井仁志・間宮寿頼・南部久男・岡　圭一・西岡　満・白石俊明・見浦沙耶子・細川美和子・森　大輔．2005．富山県における哺乳類の記録（2004年）．富山の生物．44：63－72．

村井仁志・白石俊明・間宮寿頼・南部久男・岡　圭一・西岡　満・神保美和子・森　大輔．2003．富山県における哺乳類の記録（2002年）．富山の生物．42：27－37．

佐伯邦夫．2002．黒部鐘釣石灰洞（宇奈月町）．橋本廣編．越中山河覚書Ⅰ，pp.92－93．桂書房，富山．

沢田　勇．1987．富山県下におけるコウモリの分布及びその内部寄生虫相．奈良産業大学紀要．3：197－204．

湯浅純孝．2004．コウモリ類（ヒナコウモリ科）．富山県生活環境部自然保護課編．富山の野生動植物－自然とどう向き合うか－，p.48．富山県生活環境部自然保護課，富山．

吉行瑞子・加瀬ゆか・三隅真由美．2003．日本産コウモリ４種の食性について．Animate．4：45－60．

富山県東部のカワウソの記録

南部久男[1)]・長井真隆[2)]

[1)]富山市科学博物館　〒939-8084 富山市西中野町1-8-31

[2)]〒938-0022 黒部市金屋131-1

Records of Eurasian Otter in eastern Toyama Prefecture, central Japan

Hisao Nambu[1)] and Shinryu Nagai[2)]

[1)]Toyama Science Museum, Nishinakano-machi 1-8-31, Toyama-shi, Toyama 939-8084, Japan

[2)]Kanaya 131-1, Kurobe-shi, Toyama 938-0022, Japan

はじめに

カワウソ *Lutra lutra* は、日本では1979年に高知県で目撃されて以来確認されておらず（Sakai, 2009）、環境省のレッドリストの絶滅危惧ⅠA類に（石井，2002）、富山県の絶滅危惧ⅠA類指定されている（富山県，2000）。

富山県では、明治・大正時代のカワウソの毛皮の統計が知られているが（南部，1999ａ）、その生息状況は断片的な報告がある程度である（南部，1999ｂ，ｃ；長井，2011）。今回、新たなカワウソの情報が得られたので、長井（2011）の記録とともに報告する。

方法

カワウソの情報を中尾哲雄氏（富山市在住）より提供いただいた。筆者の一人、長井（2011）の情報も用いた。カワウソが目撃・確認された場所を、当時の地図、３万分の１魚津市地図（魚津市役所，1952）及び５万分の１地形図三日市（地理調査所，1948）で確認した。また、標高は現在の国土地理院の2.5万分の１地形図から求めた。

結果

富山県東部からの２例のカワウソの目撃・確認情報について概要を述べる。

事例１（中尾哲雄氏の情報）

昭和19年（1944年）８月９日に中尾哲雄氏が、少年のころ居住地の現在の魚津市長引野から祖父（中尾三郎氏）と同市大沢の小川に川魚を捕りに行ったときのことである。人里を離れた幅２ｍの川のほとりをあるいていると小さな猫くらいの動物が走り出し、祖父がカワウソと叫んだ（当時の日記帳による）。川は大澤、黒澤、長引野、小川寺を流れる小さな川で、川魚がたくさんいた。祖父はしばらく日がたっても興奮していた。

事例２（長井の情報）

昭和22年、黒部川左岸の住居（黒部市金屋浄永寺）の仏具を入れる長持の中で、ミイラになったカワウソを発見した。イタチよりも一回り大きく、頭がペシャンコであった。当時は、境内に隣接して幅２ｍほどの素堀の用水が流れ、鬱蒼とした境内林に囲まれていた。ミイラはこの川に捨てた。当時は地元ではカワウソのことを「カブソ」と言った。

事例１の場所は、昭和27年発行の魚津市の地図（魚津市役所，1952）では（図１上）、両側が低山に囲まれた布施川の左岸側に位置する。小河川が魚津市大澤（標高約120ｍ）南東部の布施川から分流し、大澤、長沢、長引野（標高約100ｍ）を経て、小川寺東部で、布施川に合流する。川の長さは約4.6㎞である。

事例２の場所は、黒部川左岸側の黒部川扇状地に位置する（標高約10ｍ）。扇状地には小河川（地図の凡例では水溝）が多数流れている。

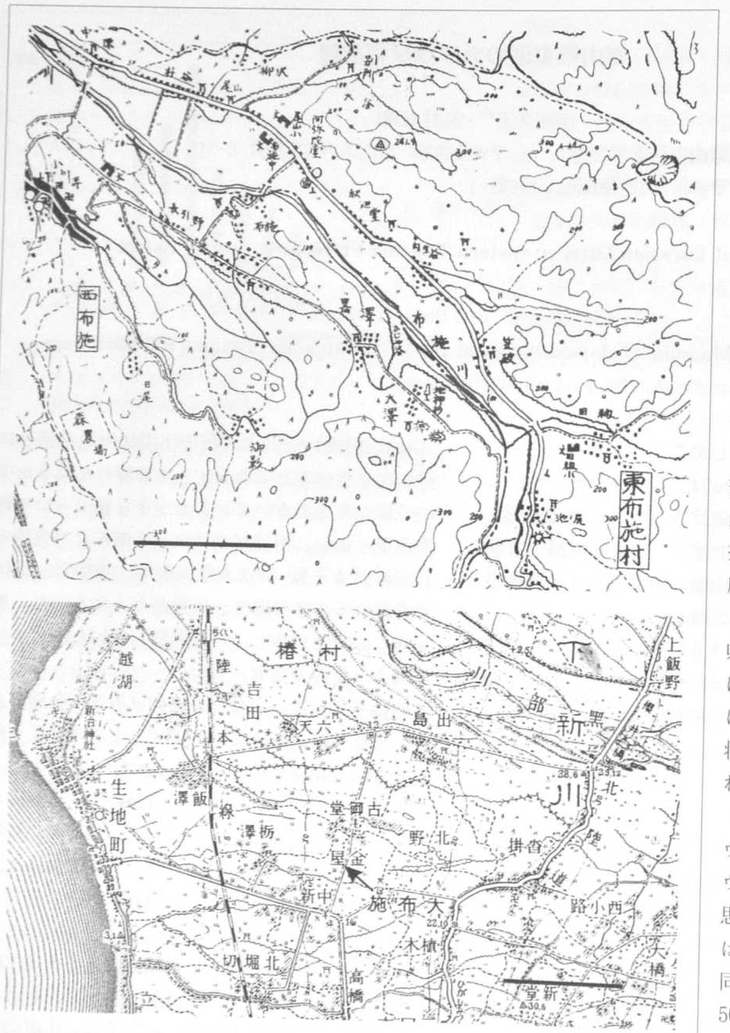

図1　カワウソの情報があった場所。上、魚津市大澤；下、黒部市金屋。
上の地図は、3万分の1魚津市地図（魚津市役所，1952）、下は5万分1地形図三日市（地理調査所，1948）。スケールはいずれも1㎞。
下の矢印は情報が得られた場所。

考察

富山県ではカワウソの毛皮が明治34年（1901年）から明治43年（1910年）に、当時の行政区分の上新川郡、下新川郡、婦負郡、射水郡、東砺波郡、西砺波郡、高岡市で計287枚生産され、多い年は55枚が生産され、西礪波郡で生産が多いことが知られている（南部，1999ａ）。大正11年度には1頭が富山県で狩猟されている（南部，2001）。カワウソは昭和3年（1928年）に狩猟獣から除外されたが、大正12年度（1923年度）から昭和2年度（1927年度）の5年間の狩猟統計があり、日本ではこの5年間に323頭が捕獲されているが、富山県ではこの期間には捕獲されていない。毛皮の統計や狩猟統計からは、カワウソは富山県では大正末にはすでに極めて少なくなり、ほとんど捕獲されない状況になったと推測される。

富山県におけるカワウソの生息情報（カワウソが生息していたと思われる情報）としては、富山県鳥獣保護員、同県ナチュラリスト等50名を対象としたアンケート調査（南部，1999ｂ）や富山県内の歴史系・民俗系博物館28館を対象としたアンケート調査（南部，1999ｃ）で4件の報告がある。内訳は、朝日町笹川（昭和20年代）、富山市高屋敷（年代不明）、富山市八尾町仁歩（昭和10年代）、小矢部川（昭和20年代）である（南部，1999ｂ）。

この4例と今回の2件、計6件の生息情報を、

又聞き情報（本人以外からの情報）、鳴き声情報（本人が実際に鳴き声を聞いた情報）、目撃情報（本人が実際に目撃した情報）、確認情報（カワウソの死体や毛皮の確認情報）に分類し、以下に整理する。なお、1～4の記述は、南部（1999ａ，ｂ）で報告された内容（鉤括弧）である。

1．又聞情報：「昭和20年代に笹川（朝日町）のトンネルと川床にカワウソがいるという話を聞いたことがある。」（勝田栄造氏）

2．又聞情報：「昔カワウソがいたという話を父親（大正元年生まれで富山市高屋敷で育つ）から聞いた記憶がある。」（小林英俊氏）

3．又聞情報：「子供の頃（昭和10年代）、父・祖父より仁歩川でカワウソがすんでいるので、近づいてはだめだといわれた記憶がある。」（高島利男氏）

4．鳴き声情報：「50数年前（昭和20年代）小矢部川にカワウソがすんでいた。鳴き声などきいた記憶がある。」（斉藤芳愼氏）

5．確認情報：黒部市金屋（昭和22年）、「長持ち中でカワウソのミイラを見つける。」（長井眞隆）

6．目撃情報：魚津市大沢（昭和19年8月9日）、「祖父と小川に川魚を捕りに行ったとき、走り出した動物を見て祖父がカワウソと叫んだ。祖父はしばらく目がたっても興奮していた。」（中尾哲雄氏）

このような事例からは、昭和20年代にはカワウソがわずかながら生息していたと推測される。

昭和20年代前後の富山県内の水辺の環境を知る人は年々少なくなり、今回のような生息情報を収集しておくことは、富山県のカワウソの分布や生息環境、絶滅の過程を知る上で極めて重要であると考えられる。

謝辞

目撃した年月日を特定した貴重なカワウソの情報をご提供いただきました中尾哲雄氏に心よりお礼申しあげます。

文献

地理調査所，1948．5万分1地形図三日市（明治43年測図，昭和5年修正測図，同23年資料修正）．

石井信夫，2002．ニホンカワウソ（本州以南個体群）．pp.42－43．改訂・日本の絶滅の恐れのある野生生物－レッドデータブック－Ⅰ哺乳類．環境省編．

長井真隆，2011．獺にまつまる話二題「実と嘘」．富山教育：907：34－37．

南部久男，1999ａ．富山県で絶滅した大型動物（哺乳類・鳥類）の記録Ⅰ　明治・大正時代の富山県における哺乳類の毛皮及び狩猟等の統計．富山市科学文化センター研究報告（22）：153－168．

南部久男，1999ｂ．富山県で絶滅した大型動物（哺乳類・鳥類）の記録Ⅱ　ナチュラリストからの報告．富山市科学文化センター研究報告（22）：169－176．

南部久男，1999ｃ．富山県で絶滅した大型動物（哺乳類・鳥類）の記録Ⅲ　博物館資料からの報告．富山市科学文化センター研究報告（22）：177－181．

南部久男，2001．1921年（大正10年度）の日本の狩猟数．富山市科学文化センター研究報告（24）：91－92．

町田吉彦，1997．土佐とニホンカワウソ．ニホンカワウソやーい．高知のカワウソ読本．pp.34－66．高知新聞社．287pp．

Sakai H., 2009. *Lutra lutra* (Linnaeus, 1758). The wildmammals of Japan (eds. S. D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M. A. Iwasa & T. Saitoh). pp.254-255. Shoukadoh. Kyoto.

富山県，2002．富山県の絶滅の恐れのある野生生物．魚津市役所，1952．3万分の1．魚津市地図．